



今月の題字
尾形優也くん
(轟木小5年)

田町のわだい

チューリップの球根植え付け 花いっぱいの町にと願い込め

飯岡地区住民自治会(佐藤忠暉会長)では10月24日、長崎地区の町道沿いの花壇にチューリップの球根の植え付け作業を行いました。この日用意された球根は、東北電力宮古営業所から寄贈された1,000個と自治会で株分けしておいた2,500個の合計3,500個。作業には同所員や自治会の皆さんのほか、今年は山田南小学校の児童も加わり総勢80人で一つ一つ植え付けしました。来春には沿道をきれいに彩る花の街道が、多くの通行人の目を楽しませそうです。



鯨館でカラー魚拓作り 見事な出来栄えにほれぼれ

9月28日と10月4日、「カラー魚拓作り教室」が鯨と海の科学館で行われ、町内の小学生から70代の方まで18人が参加しました。1回目の9月28日はカレイなど平らな魚にかぶせた布地を、魚拓用の特殊な油性絵の具でタンポを使って着色。翌週の10月4日に裏打ち用の和紙にアイロンで布地を接着し、最後に目を書き入れて完成しました。初心者でも簡単にできるとあって、参加者は魚の姿が色鮮やかに浮き出された魚拓の出来栄えに満足げな様子でした。

山田飲食業組合が老人施設を慰問 料理人が作る旬の味楽しんで

10月21日、山田飲食業組合(佐々木政昭代表)では、船越の介護老人保健施設「シーサイドかる」と特別養護老人ホーム「平安荘」を慰問。手作りの料理で入所者の方々をもてなしました。旬の味を楽しんでもらおうと毎年行っているもので、この日は会員10人がとれたての新鮮な食材を自ら持参し、所内で調理。海鮮ちらしずしや芋の子汁など3品を作りました。入所者の皆さんは心温まる手料理の数々に「とてもおいしいですよ」と何度も舌鼓を打っていました。



オランダを紹介するパネルやパンフレットを丹念に眺める方々



オランダ講座では、オランダの歴史や文化に理解を深めました



開会セレモニーでのテープカット(左から伊藤敏会長、コニー・ヨングブルドゥさん、沼崎喜一町長、ポール・ヨングブルドゥさん、松本トミ副会長、木村悌郎さん)

山田町日蘭 交流友の会 オランダ展を開催 異国文化に理解を深める

山田町日蘭交流友の会(伊藤敏会長・会員120人)主催の「オランダ展」が10月5日から11日まで、町中央コミュニティセンターで開かれました。オランダ王国ザイスト市との友好都市締結3周年を記念して、オランダとの交流を活発にしようと開いたもので、開会セレモニーには町民や関係者など41人が出席。沼崎喜一町長と同会役員らのほか、民族衣装をまとったオランダのヨングブルドゥ夫妻がテープカットを行い、開幕を祝いました。会場には会員らが持ち寄ったオランダの民芸品やパネル写真など約530点が展示され、訪れた人たちは足を止めて見入っていました。6日には、ヨングブルドゥ夫妻を講師にオランダ講座を開催。参加者はオランダの風土や生活習慣、友好都市締結までの経緯の説明を受けるなど、異国文化に理解を深めていました。

産業まつりに10,000人 新鮮な産物求め大にぎわい

秋の恒例イベント「第21回山田町産業まつり」が、10月25日と26日、鯨と海の科学館前駐車場で開かれました。会場には本町や姉妹都市などの物産品がずらりと並び、農漁業の新鮮な産物を買いたいと2日間で10,000人が詰め掛けました。会場では、「ホタテ海童杯争奪わんこそば大会」も行われ、胃袋自慢の食士43人が参加。ホタテの旨み成分が練り込まれた特製ラーメンを、制限時間内に何杯食べられるか競いました。10杯目と30杯目には大きなホタテが丸ごと入っていて苦戦する参加者。顔をしかめながら胃袋の限界に挑戦していました。各部の優勝者は次の皆さんです。【子供の部】荒川平(18杯)【中学生以上女性の部】木村和香奈(31杯)【同男性の部】東義仁(42杯)〈敬称略〉

